

社会福祉法人天上会 広報誌

2025年 春号

ひろば



めぶき園 鮫島 佳代（作業療法士、入職4年目）

私が、今年一番心に残ったことは、めぶき園に通う、ある男の子と保護者との関わりです。私はまず、本人と保護者の事を知ること、理解することから始め、どんな時も傍にいて、めぶきが安心できる場所である事を感じてもらうようにしました。お弁当の時も、早く食べたくて怒ってしまう、その子の気持ちを代弁しながら「待ってね、早く食べたいよね」と声掛けしながら一緒にどんな時も過ごし寄り添うようにしてきました。偏食もあり、慣れない場所では食事をする事が難しかったのですが、少しずつその子がめぶきでお弁当を口に出来るようになり、初めてめぶきでお弁当を完食できた日、保護者と一緒に喜びを分かち合いました。

お弁当を食べる時、場所や人に慣れてもらい食事することに集中できるよう、刺激の少ない環境作りや、座る位置、声掛けにも注意しながら関わっていきました。「安心」は、なかなか言葉では表現しにくく、その子にとって、と考え出すと答えがなく、一歩前に進んでは二歩下がるような私自身の焦りもありました。「積み重ね」とは本当に大事で、本人を信じる事だと男の子を通して、教えてもらいました。支援する側が諦めてしまいそうになることもあります、その子自身のことやその子の可能性、そして私自身の事も信じて辛抱強く関わり続けました。その関わりがどうだったのか、正解はないですが、信じて待つことや保護者に寄り添う事、何より子どもの可能性を信じる事が大切だと気づかされました。

最近では、みんなと同じ空間で、お弁当を食べる事が出来るようになり、好きな大人が出来、表情も広がってきました。男の子の方から、いないいないばあをして遊ぼうとサインを出してくれることもあり、少しずつですが、変化や成長を感じることができ、そしてその成長を保護者と共に嬉しく思っています。

これまでは先に頭で考えたりする事が多かったですが、試行錯誤しながらその子の変化や成長、そして保護者との関わりの中で私自身も成長していきたいと思います。支援する側が諦めないこと、関わり続けること、焦らずにその子自身の目線に立っていくことなど、その子との関わりを通して沢山のことを吸収し、深く考えさせられる一年でした。

新樹楽園 倉園 真由美（生活支援員、入職17年目）

私が今年一番心に残った出来事はある保護者の言葉でした。

保護者の方から電話があり、書類が届いたがよく分からないので見てもらいたいとのことだったので、自宅に伺うことにしました。普段はご自宅にお一人で暮らしていらっしゃるため、書類の確認をしながらでしたが、娘さんの小さい頃の話や二人であちこち旅行に行った時の思い出やこれから先のことなど沢山の話をされました。その時、お父さんが私に、この歌を知っていますか？と話されたのが「銀（しろがね）も金（くがね）も玉も何せむに優（まさ）れる宝 子にしかめやも」という言葉でした。この言葉は、万葉集の中の子どもを思う親のこころを詠んだ歌だそうです。言葉の意味は「わが子に勝る宝はない。人々は銀や金や玉などを宝だと言って喜んでいるが、そんなものとは比べ物にならない」だそうです。私はこの言葉を聞いて親御さんのわが子に対する思いをひしひしと感じ涙が止まりませんでした。「自分も歳をとって色んなことがわからなくなってきた」と涙ぐんで親亡きあとの子どものことをとても不安に感じておられたので、「新樹楽園に居れば何の心配もすることないですよ」とお応えするのが精いっぱいでしたが、お父さんはニコッと笑って「そうですね」と安堵された顔が印象深く残っています。

家族の思いを聞いてこれから先も思いやりをもって寄り添っていただけたらと思いました。

新樹楽園 西園 彩花（生活支援員、入職2年目）



夜勤時初めて、夜ベッドで眠っている利用者さんを見た日が、一番心に残っています。みんな眠るということはもちろん分かっていたのですが、その時は驚きました。楽園内は、いつも人がたくさんいて、ドタバタざわざわと音にあふれていました。初めて夜に勤務をするまでは、にぎやかな場所であることしか知りませんでした。しかし、夜は足音に気がつきなきゃ、と思うほど静かで、利用者さんはみんなそれぞれの部屋で、ひとりで眠っていました。いつも誰か職員がついて必ず肩が触れ合う距離感で歩いているのに、眠るときだけはひとりなのか…あんなに毎日話しかけてくれるのに、部屋を覗いても気にも留めてもらえないのか…そりゃそうか、でも不思議…と思いました。そして、驚いたと同時に、いとおしい気持ちでいっぱいになりました。その頃は特に余裕が無く、業務を覚えることやけがをさせないようにすることばかりが頭にありました。利用者さんとどんなに近くで接していても頭ばかりが働いて、その頭の中はマニュアルと書き留めたメモでびっしり。利用者さんを支援の対象としか見る事ができていませんでした。でも、すやすやとベッドで眠っている利用者さんを見て、ひとりの人間対人間としての気持ちを持てました。今でも夜間の巡回で利用者さんの眠る様子を見るのが、忙しい中での安らぎの時間です。



新樹楽園 谷山 ゆうこ（施設長、入職23年目）

今年は、Sさんが退所されたことが一番残念な出来事でした。喀痰吸引が必須で寝たきり状態になられ、新樹楽園では支援していくことが難しい、命の保証ができないと判断した結果ではありましたが、ご家族は最後まで「できれば新樹楽園でお願い



したい」と、話されていました。おそらくSさん自身もそう感じていらっしゃるのではないかと想像します。昭和47年に6歳で兄の施設に入所され、52年間新樹楽園で過ごされました。職員や入所者の入れ替わりはあるものの、変わらない支援環境の中で安心してこられたと思います。58歳になって体調の変化での仕方のないことだとは思いますが、星塚に移転してから3名の方をお見送りしました。どなたも病気で入院を経て亡くなられており、最後までお世話させていただいたという気持ちで、ある意味納得できている自分がいます。しかし、Sさんのように、自分たちではどうしようもない状況で送り出すことが、ましてや新樹楽園に残りたいと切望された気持ちに伝えることができずに“退所”という結果になったことに、何とも言えない思いで一杯です。今でも考えると涙が出ます。高齢化に突入していく現状で、同じようなことが繰り返されていくと思うと“辛い”の一言なのですが、支援者が心折れないで済むための手立てを考えていくことが、これからの課題だとも考えます。



2024年
今年一番心に残った出来事

各事業所の様子

天上会法人レクごちゃまぜ・アーティストパーティー

新樹楽団 生活支援員 松元 あゆみ

令和6年11月3日「法人レクごちゃまぜ・アーティスト・パーティー」は、これまでにはなかった初の試みで、様々な方から提案と協力を頂き、開催する事が出来ました。

まず、理事長からの「利用者の高齢化もあり、運動会やお祭りではなくみんなで楽しめる事が何か出来ないか」という提案から始まりました。そこで、普段からクラブ活動で講師をしてくださっている八反田先生に相談。「段ボールアートはありますか」とアイデアを頂きました。まだ誰もやった事のない段ボールアートでしたが取り組むにあたり、少しずつ「利用者さんの好きな事・好きな物を表現していこう！」と方向性が見えてきました。今回は5年ぶりの法人合同での開催でしたので、職員間での情報伝達が難しかったり、細かい話が出来なかったり手探り状態でしたが、それぞれの事業所職員が一生懸命「自分の事業所の素敵なおとこ」を表現する段ボールの土台を完成させることができました。

開催当日は、鹿屋看護専門学校・肝付町社協等のボランティアさんのサポートもあり、出来上がった段ボールの土台へ好きな物を貼ったり、絵の具で文字を書いたり、色を塗ったりと皆さんそれぞれが楽しむ時間となりました。更に理事長扮する「アートの神様」が降臨、各事業所代表の利用者さんが「画家」の役を演じ、参加している利用者さんが注目され、フィナーレではキラキラのクラッカーが飛んで輝き、素敵な段ボールアートの街が完成！個性と笑顔・家族との触れ合いがあふれる時間となりました。

段ボールアートのあとは会場にいる利用者さん、保護者・ボランティアの方々、職員でミュージックケアをし、皆さんの楽しそうな笑顔であふれていました。



照葉の森 余暇活動

照葉の森 生活支援員 平井 健志郎

グループホームでは、余暇活動で発見や体験を通し利用者さんそれぞれの趣味や楽しみ、興味がある事を見つけてもらえるように取り組んでいます。

令和6年度は鹿屋航空基地のエアームリアル観覧、金山蔵の坑洞見学、霧島さくらフルーツランドで金柑ジャム作り体験、それから高隈山の御岳登山を実施しました。実物の航空機の迫力、夏でも涼しい坑道内の環境、とても美味しかった出来立て金柑ジャム、山の自然を感じながら頑張って登った山頂の絶景、非日常に目を輝かせながらいきいきとされていました。時には声を掛け合って助け合い、冗談も交えながらそれぞれ楽しく参加されていました。



新樹楽団が結成され初めての演奏会

新樹フェスの開催に合わせ私たち「新樹楽団」は、音楽が大好きな利用者さんに音楽をもっと楽しんでもらおうと思い結成しました。

短期間でなかなか音を合わせる時間が少なく、上手く吹けなくても音を出すととても楽しいひと時でした。

利用者さんは近くで見たこともない楽器を間近で見れて、びっくりしたり喜んだり歌ったり手をたたいたり身体全体で音を楽しんでくださいました。

本当に楽団の方たちは音楽が好きなんだなあとつくづく感じられた瞬間でした。

そして音楽は言葉がなくても心が通じ合える素敵なツールだと改めて実感しました。

今後も音楽を通して一緒に楽しんでいきたいです。

楽団員：平野、杉木、東海林、西園



法人研修 BCP【業務継続計画】について

天上会 法人本部事務長 城野 栄治

BCP（業務継続計画）の作成が令和6年度から私たち社会福祉法人にも義務化されています。私たちの世代には昔から怖いものの例えとして『地震・雷・火事・親父』という言葉がありました。この中で特に用心が必要なのは地震です。その突発性・人間をパニックに陥れ余りある大規模地震があり得るからです。特に私達に関係する南海トラフ地震は今後30年以内の発生確率が80%という報道が気持ちを暗くさせていると思われます。

しかし、古い知恵に学べば以前から『備えあれば憂いなし』という言葉がありますが、まさにそれです。計画ができて実際に役立たなければ（使えなければ）「画餅」です。

最近ではテレビでも防災関連の情報提供番組を多く見るようになりました。水と食料は3日分とか簡易トイレの備え等々学ぶ事は多いです。天上会でもBCPの実践は緒に就いたばかりです。7年度から防火・防災委員会にその責務を所管させました。内容は研修と訓練です。私達もいざという時は利用者様の命・安全を確保するという最重要命題を背負うことになります。地に足を付けた取り組みを一步一步進めてまいりましょう。

※抜粋南海トラフ巨大地震の被害想定（2025年版）

市区町村	最大震度	前回の最大震度	最大津波高 (m)	津波到達最短時間 (分)
鹿屋市	6弱	6弱	4m	98
肝付町	6弱	6弱	10m	28

※出典：中央防災会議・南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ資料より

鹿屋市も肝付町も最大震度は震度6弱が想定されています。

津波の到達時間は鹿屋市98分・肝付町28分と異なります。

地域によっても異なるでしょうから注意が必要です。

南海トラフ巨大地震の被害想定（2025年版）

市区町村ごとの最大震度、最大津波高、津波到達最短時間

市区町村	最大震度	前回の最大震度	最大津波高 (m)	津波到達最短時間 (分)
肝付町	6弱	6弱	10	28

南海トラフ巨大地震の被害想定（2025年版）

市区町村ごとの最大震度、最大津波高、津波到達最短時間

市区町村	最大震度	前回の最大震度	最大津波高 (m)	津波到達最短時間 (分)
鹿屋市	6弱	6弱	4	98

南海トラフ巨大地震の被害想定（2025年版）

市区町村ごとの最大震度、最大津波高、津波到達最短時間

（単位はメートル）

市区町村	最大震度	前回の最大震度	最大津波高 (m)	津波到達最短時間 (分)
長崎県 壱志市	5弱	5弱	5	152
長崎県 五島市	4	4	4	127
長崎県 西海市	4	5弱	5	150
長崎県 雲仙市	5弱	5弱	5	161
熊本県 天草市	5強	5強	5	131
大分県 中津市	5強	5強	5	188
大分県 豊後高田市	6弱	6弱	6	174
大分県 宇佐市	5強	6弱	6	182
大分県 津久井市	5強	6弱	6	94
鹿児島県 鹿児島市	5強	5強	5	105
鹿児島県 鹿屋市	6弱	6弱	4	98
鹿児島県 枕崎市	5強	5強	5	73
鹿児島県 阿久根市	5強	5強	5	122

カイロス・グリーンファーム 最後の門松作成

カイロスではこれまで40年にわたり肝付町役場や肝付警察署へ、一年の感謝の気持ちと晴れやかな良い年が迎えられよう門松の設置をさせていただいておりましたが、諸般の事情により残念ながら令和6年末で最後になってしまいました。

これまでの功績をたたえて肝付警察署では感謝状を贈呈され、肝付町役場では「広報きもつき」に掲載していただきました。

肝付町役場と肝付警察にて記念の一枚



「今までありがとうございました」と感謝の言葉をかけていただきました



肝付町警察での表彰



平成6年 門松設置のあとに肝付警察署の方々と餅つき

Report Tenjou-kai

～カイロス・グリーンファーム～ しきみ作業風景

私たちグリーンファームでは橘（しきみ）という、仏壇に飾る枝物を生産しており、岡山県の花屋さんと取引しています。鹿児島県ではあまりなじみのないものですが、関西ではお墓にお供えするものは花ではなく橘が一般的なようで、岡山県の花屋さんからは「全然足りないからもっとたくさん作ってください」とお願いされるほど、橘というのはたくさん使われているみたいです。作業中は皆さん和気あいあいと楽しそうに橘の栽培に取り組んでくれています。夏は暑く、冬は寒い中でカイロスの利用者様たちが頑張って作った橘が遠く離れた場所で使われていることを考えると、とても感慨深いものがありますね。

（カイロス・グリーンファーム 職業指導員 柿元祐志）



編集 後記

最後までお読みいただきありがとうございます。表紙の写真は活動の一コマですが、私がめぶきでの未就学期、学童期に関わらせていただいた方々です。笑ったり泣いたり、立ち止まったり、子どもたちや保護者の方々と一緒に成長させてもらったことを昨日のこのように思い出します。本当に幸せな時間で今の自分の活力源となっています。いくつになっても一人ひとり見る世界は違ってどれもかけがえのないものです。これからも天上会のたのしい活動、輝いている姿をお伝えできれば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

（こども発達支援センターめぶき園：枝元 智代）